賀茂社記録

二十五

832
97
305

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

近代社職次第

832
97
305

25

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

○七家社司初補年齢

松下

矩久 元和無位 十七才
解職 常久 元禄十六 十八才

順久 寛文五 十五才
自氏人直補権祝
督久 享保二 五十才

賢久 天和三 十三才

格久 元禄 廿二才

明久 享保七 叙爵 祢祝 十三才

博久 寛保二 祢祝 九才

7 2 2
求
購

林

重副 寛永六無位 廿二才九一
重豊 寛文七 五四才

重治 享保五 叙爵 祢祝 十才
後改一春

重統 元禄十六 叙爵 祢宜 四十一才

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

木林

盈久 元和五 十六才

解職 倫久 享保四 七四才

進久 寛文七 八六才

解職 連久 貞享二 八三才

庸久 宝永八 七五才

篤久 享保六 辛丑自民人 直補片岡祢宜

嶺久 享保六 七自民人 直補片岡祢宜

鳥居大路

誠平 元和九 十七才

解職 佐平 宝永二 十六才

命久 元文四 七八才

順平 寛文八 十二才

盛平 享保六 辛丑自民人 直補権祢宜

雄平 天和二 十五才

孝平 元禄五 九才

應平 享保十三 十一 九二 元延季 九八才

富野

寛久 正保三無位 八九歳

就久 寛永四 四歳

正久 享保十六 九才

解職 致久 元禄十三 九一歳

季隆 享保六四十三才自民 改親久 氏人直補貫布祢宜

梅辻

起久 正保三 三十才

職久 寛永四 八五才

興久 元文五 七 梅辻家相続 社職初 元保齢又一爵

治久 元重雪梅辻家相続改治久 寛保二 八 直補木冊祢宜 下時 九才 日日う五年

岡本

保可 寛文五片岡祢宜 四十一才

保憧 享保二 十二才

保喬 寛永七 十一才

保齢 享保十八 十三才

依

乍抱社職為梅辻家相続

森尚久一男神主正五位下治部大輔

用久

慶長十四年十二月 直補正祢宜 千時無位 年十一
父尚久依与奪超上首權祢宜詮平片岡祢宜述久等
同十五二十八 神主以久之 元和五十二五辞 神主鷲退
正祢宜矩久替而補 神主 寛永五十二廿一遷補神主
矩久之 同十四十二廿一辞神主鷲退正祢宜矩久替而
替
補神主 正保三年十二月与奪正祢宜職於理久
明暦元八九七卒 年五十七

用久男 神主 従五位上 森左京

理久

正保三年十二月 十二日叙爵也 同日補職故
父用久依与奪直補正祢宜超上首權祢宜満久片岡
祢宜誠平貴布祢宜寛久同視幸久等
同月十八日 神主 矩久之 明暦元年八廿七依父表辞神
主同年九廿四矩久替補 同二年 十一二於江戸卒年
九八

右雖為七家御定以前之儀用久与矩久社
職交替及数度之間為勤合所書加也惣
此二篇所編録全為後自家之忽忘也轉
不可令傳写後昆若違其意却招後難
乎苟非其人勿許焉

右京權大夫從四位下賀茂縣主清茂

七家社司補職之次第

以久勇 神主 從三位 松下兵部大輔

矩久 元高 又誉一 元和四年十二月 直補 正祢宜 千時無位年十七

同 五 十二 五 鵜退 正祢宜

寛永五 十二 十八 翌補 神主 用久之嫡

同 十四 十二 廿一 鵜退 正祢宜

正保三 十二 廿八

明暦元　九四
同　二　十二　九七
同　三　正　九一
同年　十一　九五
寛文五　十二　九三
貞享二年　六十三歳　年八十四

重邦四男　正祝　無位　林宮内
重副（スケ）

寛永六　十一　十四

直補　正祝　年七二　九一

従補三ヶ度　神主　理久之昏
上表
辞職
復本職
辞神主　誠平昏補

明暦二　十二　九七
同　三　正　九一
同年　十一　九五
寛文七　十二　十三
貞享四年　二十五死　年七十九　八十一

上表
辞職
復本職
辞正祝　重豊昏補

尚久二男　正祢宜　正五位下　森刑部大輔

盈久（ミツ）
元禄一　元和五　八　十六
明暦二　十二　九七

直補　権祢宜　誠平之昏　従五位下　年十六

上表

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

同　三　正　廿一　辭職

同年　十一　廿五　復本職

寛文五　十二　廿三　正祢宜

此時超正祝重副

同六年　十二　卒　年六十二

詮平一男

誠平

神主　正五位下　鳥居大路　修理大夫

元和九　十二　朔　直補 片岡祢宜　元久之替　從五位上　年十七

明暦元　十　廿六　正祢宜

此時權祝闕職訴論半也　同祢宜盈久不慱
正祝重副依譜代不慱但此時代正權祝兩家譜第
他不補之也

同　二　十二　廿七　上表

同　三　正　廿一　辭職

同年　十一　廿五　復本職

寛文五　十二　廿三　神主　矩久之替

同七年閏二　廿五　卒　年六十一

此時至四月十四日
神主職闕大谷
起久替補

尚久三男

寛久

正祢宜　從四位下　冨野　宮内

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

正保 三 十二 九二　　直補
同日起久補貴布祢祝　貴布祢々宜
明暦 二 十二 九七　　上表　　無位 年三十九
同 三 正 九一　　辭職
同 年 十一 九五　　復本職
万治 二 十二 九二　　片岡祢宜
同日重次直補片岡祝
寛文 五 十二 九三　　權祢宜
此時超權祝重栄
同 七 四 十八　　正祢宜

此時超正祝重副
延宝 三 年 十一 卒 年六十九

與久男　神主　正三位　梅辻脩後
起久（ヲキ）
元景
又章
幸
正保 三 十二 九二　　貴布祢祝　従五位下 年三十
明暦 二 十二 九七　　上表
同 三 正 九一　　辭職
同 年 十一 九五　　復本職
万治 三 十二 九二　　同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

寛文六　十一　十七

正祢宜　盈久之脊

此時片岡祝重沢
間今度不傳敗權祝重栄　同祢宜寛久兄盈久寛文六年十月二日卒依此職不傳歿四十六日目也
正祝重副等不傳

同　七　四　十八

延宝四　二　十一

神主　誠平之脊

元六二年　三八薨

辞神主　保可脊補

重副三男　正祝　従三位　秣伊豆守

重豊

寛文　七　十二　十三

直補
正祝　従五位下
年九四　重副之脊

保意男　神主　従四位上　岡本　宮内

保可（ヨシ）

元路

寛文　五　十二　九三

享保元年九十一薨　年七十三　此後依有申分至同二年四十九正祝職闕同廿日致父薄之

片岡祢宜　従五位下
年四十一

元氏神祢宜也依去年御載許之旨起数職故自是以前之事別記之

同日順久補賞布祢祝

片岡祝重沢依御載許之旨不轉

同　七　四　十八

此時起權祝重栄　同祢宜起父依重服不轉

權祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

延宝三十九
此時超正祝重豊

同　四二十一　正祢宜　寛久之昏

天和三七三　神主　超久之昏

同月廿一日卒　年五十九　辞神主　須久脊補

矩久一男　神主　従三位　松下民部
順久（ニノリ）
元順久（モトノリ）

寛文五　十二　九三　貴布祢祝　民之脊　従五位下　年十五

同　六　十一　十七　同祢宜

同　七　十二　十三　超片岡祝重次　片岡祢宜

延宝三　十九　超權祝重栄　權祢宜

同　四二十一　超正祝重豊　正祢宜

天和三七三　神主　保可之脊

貞享二六十三　依父養　辞神主　干時年九五　雄久脊補

盈久男　神主　従三位　森　右京權大夫
維久

寛文七十二十三　貴布祢ノ宜補
寛文六年十月二日維久父盈久卒去故同年二十七各轉補之
時維久不能補之服闋之後今度所被補也貴布祢祝職者
自寛文四年十二十七至同八年五十六祠

延宝四　二十一　權祢宜
片岡祝重次　同祢宜順平　越後維久之
權祝重栄　等不轉故越越

天和三　七　三
越正祝重豊　正祢宜

貞享二　六　十四　神主　順久之嫡
元禄三年六九辞神主同日薨　年五十九
職久嫡補

誠平男　片岡祢宜　正五位下　鳥居大路大膳
順平

寛文八　五　十七　貴布祢祝　従五位下
延宝三　十　九　年十二
片岡祢宜

超貴布祢宜維久依忌片岡祝重澄等時貴布祢祝兼職
就之依服中不轉補故也

天和二　十二　九　四　辞職依悪疾也
元禄二年六九二卒
年九

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

起父一男　神主　正三位　梅辻宮内
職父

延宝四　二　十八　直神　貴布祢宜　正五位下
　于時　仙洞御所非蔵人也依別勅御奉公無懈怠
　後例之旨傳奏被仰渡于社物代　年廿五
同　七　三　九六　片岡祝　重次之脊
天和二　十二　廿四
同　三　七　三　権祝重栄　順平之脊
負算二六　十四　権祢宜　同祢宜
　超正祝重豊　正祢宜

寛文一男　神主　正三位　富野左京
就父

元禄三　六　廿九　神主　淮父之脊
同　十三　正　廿八　辞神主　就父脊補
　同十四年三廿三薨　年六十

延宝四　十一　十六　貴布祢祝　正五位下
　延宝三十廿六父寛文辛未依服中延宝三十廿同四十二両度父各輔補之時
　就父不能補故自延宝三十廿至同四十二十五貴布祢祝兼職也　年廿四
同　七　三　廿六　同祢宜
天和二　十二　九四　片岡祝
同　三　七　三　同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

貞享二　六　十四　　権祝重栄
元禄三　六　廿九　　正祝重豊　正祢宜
同　十三　正　九　八　　神主　職久之脊
宝永八　三　六　　辞神主　保喬脊補
保可一男　神主従三位　岡本宮内大輔
保喬（タカ）

延宝七　三　九　六　　貴希祢祝　同日従五位下
　　年十一

天和二　十二　九四　　同祢宜
同　三　七　三　　片岡祝
貞享二　六　十四　　同祢宜
元禄三　六　廿九　　権祢宜
同　十三　正　九　八　　権祝重栄　正祢宜
宝永八　三　六　　神主　就久之脊

貞享保四年十九二典乳年五十同日申依病氣危急
辞當職之由於奉行傳奏同九日被御出辞
職勅許之旨了同十二日連久脊補

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

起 父曽男 順平養為子 片岡祢宜従四位下 鳥屋路修理
雄卒
元慶 天和二十二年四
同 三 七 三
貞享二 六十四
元禄三 六年九
同五年五九卒 年
九五

貴布祢祝従五位下
年十五
同祢宜
片岡祝
同祢宜

順久二男 片岡祢宜 従四位下 松下大蔵権大輔
賢久

天和三 七 三
元禄三 六年九
同五 八年七
同十三 正年八

貴布祢祝従五位下
年十三
同祢宜
片岡祝
同祢宜

同十四年七年四卒
年 三十一

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

寛久男　維久為養子　神主　正四位下　森　下飛騨守

連久　元母貞久

貞享二、六、廿九　直補　貴布祢禰宜　従五位上　年三十三

此時貴布祢祝賢久依祖父雅久之服中不搏故超越
又自貞享二年六十四至同六九日貴布祢禰宜闕

元禄三、六、廿九　片岡祝

同五　八　廿七　同禰宜　雄平之替

同十三　正　廿八　権禰宜　超権祝重栄

宝永八　三　六　正禰宜　超正祝重栄

職久男

郡久

享保四十二十二　神主　保喬之替

同五　六　十二　被解職并官位

同六　二　十五　遠流隠岐国　重統補

権祝　正四位下　梅辻　備後守

元禄三、六、廿九　貴布祢祝　従五位下　年十三

同五　八　廿七　同禰宜

同十三　正　廿八　片岡祝

宝永八　三　六　同禰宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

享保二四廿　権祝
同五六十一　被解官職
同六二十五　被召放位階遠流壹岐国

職久二男
孝平（タカ）
元郷久
雄平為養子　貴布祢々宜　從五位上　鳥居大路　右京

元禄五八廿七　貴布祢祝　同日叙從五位下　九才
同十二正廿八　同祢宜
同十六年十一廿四為保造被害　年廿六
正祢宜　從四位上　冨野　治部大輔

熟久男
致久（ムネ）
元隆ー
元禄十三正廿八　貴布祢祝　從五位上　年廿一
同十四八二　片岡祢宜　賢令替
此時貴布祢々宜孝平　片岡祝　郡久亦依父表
不轉

同十六十二五　権祝　重栄之旨

宝永八三六　同祢宜

享保二　四九　正祝

享保元九十祝重豊薨之後林家与一社及出
仕間正祝闕職依其事落着今日所被補也

同四　十二十三　正祢宜

同五　六十二　被解官職

同六　二十五　被召放位階所追放

順久二男　貴布祢祝　従五位下

格久

元禄十四八正　松下

自八月晦日至同七日貴布祢祝職欠

同十六年六九五卒　年廿八　兵部

恵久一男　順久為養子権祢宜　従四位下　松下

常久　民部大輔

元禄十六十二五　直補

同日重元補貴布祢祢宜同祝闕職庁岡祝郡久者依
勇孝平之服中不摂故常久直補庁岡祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

寳永五三六　權祝
享保二四廿　同祢宜
同五六十二　被解官職
同六二十五　被召放位階并追放

東副六男　重豊為養子　神主　従三位　林　宮内權大輔
東続ツグ
元ー和
又ー元
元禄十六八十二五　直補　貴布祢宜　孝平之替　従四位下　年四十一
宝永八三六　片岡祝
享保二四廿　同祢宜
同五六十二　神主　連久之替
同十五九十八　辞職　勅許　保孔替補
同十五十二七七　薨　年六十八

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

連父男 孝平之跡相續 片岡祝 從四位下 鳥屋路 左京
佐平
元斯 寶永二六 朔
自去元六十二年六廿二至于茲貴布祢祝職闕
同 八 三六 貴布祢祝 格之替 從五位下 年十六
享保二四 六
同 五 六 十二 同祢宜
同 六 二 十五 片岡祝
被解職
被召放位階遠流隠岐国

維久二男 貴布祢之掌 正五位下 森右京
庸久(ノブ)
寶永八三六 貴布祢祝 從五位下 年廿五
享保二五四 同祢宜
同四年八四卒 年廿三

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

保喬二男
保懐（ヤス） 享保六八月改ー禮 神主 従四位上 岡本 宮内大輔

享保二 五 四 貴布禰祝 従五位下 年十二

同 四 九 廿六 同 禰宜 庸久之替

同 六 二 廿四 超五職 正禰宜 致久之替

自享保五年六月十二日至同六年二月廿四日 正禰宜職欠

同 十五 九 十八 神主 重統之替

元文三 正 廿一 卒 年 三十三

昨廿日申依病気危急辞當職之由於奉行傳奏
同廿一日被御出辞職 勅許之旨也 同廿二日督久替補

連久三男
倫久（トモ） 貴布禰祝 従五位下 森 式部

享保四 十 九 貴布禰祝 従五位下 年廿四

同 五 六 十二 被解職位

同 六 二 十五 御追放

重統一男

重治ハル 改孝 正四位下 林 山大夫 宮内権大輔

後備前守 宝ノ九十ノ六八勅許

享保五 六 廿七 貴布祢宜 同日従五位下 十六才

倫久之猶

同 六 二 廿四 越五職 正祝

自享保四年十二月十三日至同六年二月廿三日 正祝職闕

宝暦四 五 十九 被止祝職 松下傅久補

同九 三 十二 還補 四十九才

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

盛平一男

盛平　権祢宜　従四位上　鳥居大路　修理大夫

直補権祢宜　常久之聟　正五位下　年五十一

享保六　二　廿四

同月廿五日於當社傳奏万里小路中納言尚房卿并許并奉行坊城

権右中弁俊将并列座之而鳥居路相續之事被御渡依之自氏人

直補権祢宜　督久篤久氏俔李隆等同門

自享保五年六月十一日至享保六年二月廿三日権祢宜職欠

同十三　十　十六卒　年五十八

慶久三男

督久　神主　従三位　松下　安房　大膳大夫

直補権祝　邦久之聟　従五位上　年五十

享保六　二　廿四　子細見上

自享保五年六月十一日至享保六年二月廿三日権祝職闕

同十三　十　廿八　権祢宜

同十五　九　十八　正祢宜

元文三　正　廿二　神主　保禮之聟

辰祝重治事同日可為譜代職之旨被仰出故超越之

同五年　五月廿五日薨　六十九才

廿四日辞職即日辞職勅許

久尾四男
篤久　前權祢宜

享保六　二　廿四　森　但馬守
　子細見上　直補　重統之脊　従五位下
　自享保五年六月十日　至享保六年二月廿日　庁岡祢宜　年卅四
同十三　十　廿八　庁岡祢宜戒闕
同十五　九　十八　權祝
　享保六年十月廿日辞權祢宜　權祢宜
　子細位傳記之
　祢宜依所労社用依難勤之

氏主宜四男
氏往　享保十四年四月　改統久　西位下　梅辻　石見　左京大夫

享保六　二　廿四　庁岡祢宜
　子細見上　直補　従四位下之脊
　自享保五年六月十日　至享保六年二月十三日庁岡祝職闕　庁岡祝　年四十二
同十三　十　廿八　庁岡祢宜
同十五　九　十八　權祝
同廿　十一　廿八　權祢宜　篤久　依辞職也
元文三　正　廿二　正祢宜
同四年二月十九卒六十七

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

前奈良禰祝
季求男
季隆（タカ）　享保四正月改親久　片岡禰宜　従四位下　冨野　備中守　式部少輔

享保六　二　廿四　子細見上　直補　貴布禰禰宜　保諒之替　従五位上　年四十三

同　十三　十　廿八　片岡祝

同　十五　九　十八　片岡禰宜

同　十六　五　十六　辞職依病氣大切也

享保十六　五　十八　卒　年五十三　先是申依病氣

危急辞社職之由於奉行傳奏　同五十六被　御出辞職　勅許之旨了

督久男
神主
朝久（トモ）　正四位下　松下　民部少輔

享保七　十　十二　貴布禰祝　従五位下　年十二

自享保五年六月廿四日至同七年十月十二日　木舟祝職欠

同　十三　十　廿八　貴布禰々宜

同　十五　九　十八　片岡祝

同　廿　十一　廿八　片岡禰宜

元文　三　正　廿二　權祝

同　四　二　廿六　權禰宜

同五 五九五

寛延三四 五

同四年 正十三卒

正祢宜

轉神主

年四十一

改季隆一男

神主 延季 改應平 正三位

鳥居大路

出羽守

貴布祢祝 明久屋 従五位上 九八大

享保十三十一廿二

同年十月十八日權祢宜盛平卒 權祝竝至貴布祢祝次男轉補貴布祢祝戰闕同月九八日

延季被補之同時鳥居大路家斷絶三年以延季更改取立

被仰付之旨於傳奏清閑寺大納言治房卿許可奉行

柳原辨次序列座被仰渡于一社惣代并七家惣代周旋自

十月十七日至同月廿日權祢宜戰欠自十月十八日至十一月十八日

貴布祢祝戰欠右職闕之間依仰吉神事勤方轉昇而

勤之違享保四年之 勅裁也

同十五九十八　貴布祢々宜

同十六五十六　片岡祢宜

同日父親久片岡祢宜職辞退　勅許故也

于時片岡祝明久依故障超越

同二十十一廿八　権祝

元文三正廿二　権祢宜

同四二廿六　正祢宜

同五五廿五　神主　督久之替

神主督久依急病辞職之旨当日自一社申傳　其此時正祢宜

應平権祝正久木舟祢宜命平等至六月二日忌服之由申之

同夜辞職　勅許被御渡又御忌服中轉補不可有社例欤然

松尾社案相宗去年雖重服中被補神主了以件傍例可申上之

旨被御渡于一社惣代仍翌廿五日以件例申上之処忌職共轉補

之儀即日勅許也

岡本

他松　美濃守

保喬更為保礼養子

保𨩣　改保𨩣

元文五年三廿七梅辻家相續改與久無實子以重雪久改紹為養子

享保十六五十六　貴布祢々宜　従五位下　廿三廿

同廿十一廿八　片岡祝

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

元文四二廿六　片岡祢宜
同五五廿五　権祝
寛保三三廿二卒年三十五

季隆次男
神主　正久　元正季　正三位　冨野　一平　大蔵権大輔
享保十六五十六　貴布祢祝　従五位下　廿歳
同十五九十八ヨリ至于茲末弃祝職矣
同廿一廿八　同祢宜
元文三正廿二　片岡祢宜　超保爵
同四二廿六　権祝
同五五廿五　権祢宜
于時服中詳應平所々記之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

寛延三　四　五　正祢宜

禰重孝依譜代賤不溥故超越

重統勇　森篤久為養子　元重福　正三位

前正祢宜　尊保　九十一　九八

元文三　正　九二　此時未舟祝関戦

同四　四　十七

同五　五　九五

寛保三　三　九三

寛延三　四　五

森兵部權大輔

貴布祢祝　従五位下　年九一

貴茅祢宜

佐岡祝

同祢宜

權祝

同祢宜

應平男
命平　正四位下　出羽守　三十歳
元文四　四　十七
同五　五　九五
寛保三　三　九三
于時服中詳見應平所
寛延三　四　五
同四　宝暦元　正　十七
同年五　一　十九

鳥居大路
梅丸
直補
貴布祢々宜　八歳　五位
片岡祝
片岡祢宜　十二歳
權祝
同祢宜
辞職　依海老一件之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記錄. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

宝暦十三 十一 三 鶴退 還補権祝 従五位下 三十二才
右者當官権祝保平辞職之替也 保平冨野家
相續ニ付辞権祝ニ而更鶴補木舟祢宜（保平 命平之弟ニ）
明和八 十 朔 轉権祢宜
安永六 正 十三 卒 四十二才

故保喬男
神主 保韶 越後守 正三位
元文五 五 九五
寛保三 三 九三
寛延三 四 五

岡本 亀千代
直補 貴布祢々宜 十才 同日叙爵
権岡祝 十三才
同祢宜

重説（無官）慶長十九 七十二才

重榮（無官）明暦二 九九才

重澄（無官）万治二 三十才

重沢 万治二 六十一才

新補社司十六流員数并初補年齢

（俗称）

氏之 万治二 六十五才

氏持 寛文八 五十五才

氏柱 享保七 四十九才

氏徳 寛文五 四十七才

氏行 宝永四 六十九才

伊氏 寛保三 五十二才

氏冬 寛文五 六十八才

氏起 宝永四 六十二才

邦氏 宝永四 五十三才

氏求 寛文八 七十三才

氏従 享保十二 四十八才

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

和久 無足 万治二 廿三ノ

保矩 万治二 卒四ノ

保加 元禄六 五十六ノ

保記 享保六 五十ノ

常保 宝ノ五 五十ノ

季周 万治三 四十四ノ

季有 元禄十 六十五ノ

有久 万治三 六十五ノ

保可 無足 万治二 廿三ノ

保純 元禄十 五十四ノ

保貴 享保七 五十五ノ

保太 宝ノ九 四十九ノ

季村 寛文五 四十七ノ

季根 宝永四 五十八ノ

保家 寛文十二 卒四ノ

保太 宝永六 六十九ノ

保萬 元文二 六十一ノ

元保 明和元 宝ノ五 四十ノ

季通 天和三 六十五ノ

季張 宝永七 六十三ノ

保庸 元禄五 六十八ノ

保臣 宝永七 五十ノ

保統 宝ノ四 四十一ノ

季求 元六 六十ノ

季品 正徳五 五十一ノ

季卿 享保四 六十二ノ

季倫 宝暦 四十六ノ

牧顕 万治三 七十ノ

令顕 元禄五 六十ノ

盲顕 正徳二 六十二ノ

世顕 建長高 五十二ノ

賢顕 明和五 四十六ノ

清雄 万治三 四十二ノ

季内 享保五 五十三ノ

茂季 同上 四十四ノ

季賢 享保六 五十四ノ

季寶 同上 卒三ノ

季英 享保十 六十二ノ

定季 宝ノ十二 六十四ノ

英顕 寛文六 四十八ノ

由顕 宝永七 五十一ノ

太顕 享保二 四十九ノ

哲顕 宝ノ四 四十四ノ

朝顕 寛文十二 五十五ノ

水顕 正徳三 四十八ノ

与顕 享保三 五十一ノ

起顕 宝ノ七 四十六ノ

金顕 口無足 天和三 六十五ノ

糧顕 正徳二 卒四ノ

高顕 享保九 六十卒ノ

親顕 明和二 三十八ノ

清當 寛文八 四十八ノ

清令 元禄四 五十七ノ

清可 宝永五 五十九ノ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

清盈 永徳九 六十四才
董清 享保六 六十二才
庸清 元文四 五十四才
田清 寛延四 五十三才

冨清 宝暦四 四十四才

成置 無足 寛文二 三十才

兼益 寛文十 四十九才
兼逵 貞享二 五十三才
兼林 元禄六 五十三才
兼起 宝永四 五十六才

兼令 延享四 五十一才
兼為 明和八 四十六才

宣直 寛文二 四十六才
佑直 寛文十二 四十九才
成直 無足 貞享四 六十五才
宗直 元文四 五十四才

言直 元文五 六十四才
田直 寛延三 五十二才

宗賢 天和三 六十五才
茂宗 宝暦四 三十六才

貞俊 元禄五 五十五才
詮俊 宝永三 六十二才
之俊 正徳五 六十五才
粟俊 安永二 三十二才

弘増 無足 元禄六 七十一才

昌韋 享保三 五十二才

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

○新補社司次第

重村(カ)朝臣　權祝　正四位下　大沈大藏

重栄(カ)

明暦二十二　十六　直補

元禄十五年　九十九　權祝　従五位下

元禄十五年七十六　將依有申分至同

十六年十二而權祝職ヲ

同音致之替補

重説朝臣　片岡祝　從四位下

重沢　筑後

元一之

万治二　十二　廿二　直補

片岡祝　從五位下

年六十一

延宝七年 三十九卒 年八十一 同月廿六日職ヲ補ス祈年祭

氏護一男 貴布祢祝 従五位上 山本内蔵

氏之

万治二 十二 廿二

寛文二 八 六

口宣案万治二八六ヲ誤也

同年 九十一卒 年六十八 至同五年十二月二貴布祢祝職闕同廿三日順次補之

重信二男 新宮祢宜 従五位下 藤木左京

重倚

重倚解職之後寛文五十二九三宣直補新宮祢宜自是之連綿

万治二 十二 九二 直補 大田祢宜 従五位下 年卅

寛文二 八 六 新宮祢宜

同年 十二 十八 被解却職位林采獄

同三年十二九八被追放賀茂境内隠住西賀茂其事詳見系図 宝永三年二九死年七十七 新宮祝 従四位上 藤木兵部

庸之二男 アヤ和久 元光 万治二 十二 九二 直補 若宮祢宜 従五位下 年卅三

寛文五 十二 九三 新宮祝

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

同日有久縛大田祝保矩縛大田祢宜

元禄五年二六卒 年六十六

保興一男
保矩 大田祢宜 正五位下 河北玄番

万治二 十二 九二

寛文五 十二 九三

同日季周縛若宮祢宜 有久縛大田祝

同十一年 十二 九八卒 年六十六

自同元旨至同十二年正十三大田祢宜職解同十曽季周縛補

直補

若宮祝 従五位下 年卅四

大田祢宜

有久

有久一男 大田祝 正五位下 藤木土佐

萬治三 十二 九四

寛文五 十二 九三

同日枝顕縛若宮祝 季周縛若宮祢宜

直補

大宗良祢宜 従五位上 年六十五

大田祝

同八年 三 九五卒 年七十三

季好一男
季周 新宮祢宜 正四位下 西池備中

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

万治三 十二 廿四 直補 奈良祝 従五位下 年四十四
寛文五 十二 九三 若宮祢宜
同日清雄轉奈良祢宜 枝顕轉若宮祝
同 八 五 十七 大田祝 有久之猶
同 十二 正 十四 同祢宜 保矩之猶
天和三 二 廿八 新宮祢宜 宣直之猶
此時超祝 和久
元禄五年 十 九二卒 年七十六 同廿七日清雄轉新宮祢宜

方顕一男
枝（シゲ）顕 元寡（カス）—
大田祝 正五位下 中大路 豊後
萬治三 十二 廿四 直補 澤田祢宜 同日従五位下 年七十
寛文五 十二 九三 若宮祝
同日清雄轉奈良祢宜成置轉奈良祝
同 八 五 十七 同祢宜
同 十二 正 十四 大田祝
同年 二 九五卒 年八十二

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

清安二男　新宮祢宜　正四位下　芝式部
清雄

万治三　十二　九三　直補　澤田祝　同日從五位下
寛文五　十二　廿三　奈良祢宜
冒氏德直補沢田祢宜成置換奈良祝
同八　五　十七　若宮祝
同　十二　正　十四　同祢宜
同年　四　十七　大田祝　枚顕之脊

天和三　二　廿八　同祢宜
元禄五　二　十八　新宮祝　和父之脊
同年　十　廿七　同祢宜　李周之脊
宝永四年五廿四卒　年八十九　同月十五日蓋轉新宮祢宜

保憲二男　神主　從四位上　岡本宮内
保雅

元路万治三　十二　九四　直補　氏神祢宜　從五位下
依寛文四御裁許之旨此後轉補澤見七家之内　年　廿六
天和三年七廿一卒　年　五十九

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

佳直一男　新宮祢宜　正五位下　藤木但馬
宣直（ノブ）

寛文二八六　直補
同　五十二廿三　大田祢宜　同日従五位下
此時超祝　和久　年廿六初従飛面
天和三年二廿七卒　新宮祢宜　重倫之後
成祥二男　大宗良祝　従五位上　藤木信濃
成置（シゲキ）
元一作

寛文二八六
同　五十二廿三　氏神祝　同日従五位下
同日季村直補　氏神祢宜　年卅初任鍼博士
氏徳直補　沢田祢宜
同八年三廿卒　大宗良祝
氏見一男　新宮祝　高倉下　西池左兵衛
氏徳（ノリ）
寛文五三九三　直補　澤田祢宜　従五位上
同　八五十七　大宗良祢宜　年卅七

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

同日季村轉奈良祝

同　十二　正　十四　若宮祝

同年　四　十七　同祢宜

天和三　二　廿八　大田祝

元禄五　二　十八　同祢宜

同年　十　廿七　新宮祝

同年　十二　十九　卒　年七十四

氏増三男　澤田祝　従五位上　北大路出雲

氏冬

寛文五　十二　廿三　直補

同八年　四　三　卒　年七十一　澤田祝　従五位下　年六十八

季理男　若宮祢宜　従五位下　山本尤京

季村

寛文五　十二　廿三　直補

此時氏神祝闕職　氏神祢宜　従五位下　年四十七

保可之昏

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

同　八　五　十七　大奈良祝　成置之脊
　同日氏永直補澤田祢宜　英顕搏澤田祢宜
同　十二　正　十四　同祢宜
同年　四　十七　若宮祝
天和　三　二　北八　同祢宜
　元禄六年　三十八卒
知顕一男　奈良祢宜　従四位上　中大路大膳
英顕（ヒデ）　元良ー

寛文六　四　北四　氏神祝　深井位下
同　八　五　十七　年四十八
　同日氏持直補氏神祢宜氏永直補澤田祝　澤田祢宜
同　十二　正　十四　大奈良祝
同年　四十七　同祢宜
　天和三年二十九卒年六十五
氏意二男　大奈良祝　従五位上　霓師伊豆
氏永（ヒサ）

寛文八　五十七
同　十二　五十四
同年　四十七
同年　七三卒　年七十七
氏昭三男　若宮祝　従四位上　梅陰大炊
氏持
元清
寛文八　五十七
同　十二正　十四

直補
氏神祢宜　従五位上　年五十二
澤田祝

直補　氏冬之脊
澤田祝　従五位上　年七十三
同祢宜
太采良祝

同年　四十七
同年　八九九
天和三　二九二
同年　二九八
貞享四年四二卒　年七十一
若宮祝

同祢宜
太采良祝　氏求之脊
同祢宜　英顕之脊

清用男　氏神祝　従五位上　大膳
清當
元貴
寛文八　五　十七
氏神祝　従四位下　年四十八

同十年十九年 年五十

兼生男 新宮祢宜 山本 三河

兼益

寛文十 十二 壮

同 十二 正 十四 氏神祝 清當之脊 従五位上 年四十九

同年 四十七 同祢宜

八 九 澤田祝

天和三 二 九二 同祢宜

奈良祝

同年 二 九八 同祢宜

貞享四 四 九 若宮祝 氏持之脊

元禄五 二 十八 大田祝

此時若宮祢宜季村依病不搏故越哉

同年 十九七 同祢宜

同年 十二 九五 新宮祝 氏徳之脊

宝永四 六 十五 同祢宜 清雄之脊

同年十一 八 卒年 八十六 同月廿日依真搏新宮祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

保貞男　大田祢宜　正五位下　岡本民部
保家ノ父

寛文　十二　正　十四
同年　四　十七
同年　八　九九
元和　三　二　九二
同年　二　九八
貞享　四　四　九

元禄　五　十　九七
此時若宮祢宜季村依病不勤
祝季通依忌不勤故二級超越
同年　十二　九五　同祢宜

景顕　男　澤田祢宜　正五位下
朝顕ノ父

寛文　十二　四　十七
同年　八　九九

同六年　九朔卒　年七十五
藤木主計

寛文　十二　四　十七
同年　八　九九

民神祝　従五位下
同祢宜

民神祝　従五位上
同祢宜
澤田祝
同祢宜
大宋良祝
同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

天和三　二九二
同年　二九八
同年八十卒年六十六
友有男　新宮祭　番長下　藤木刑部
佐有
寛文十二八九
天和三二九二
同年二九八
氏神祝　従長官下年四十九
同称宜
沢田祝

負事四四九
元禄五二九八
同年十七
同年十二九五
此時二級超越子細見上
大田祝
同称宜
奈良祝
同称宜
新宮祝
同称宜　保家之脊
兼益之脊
同　六九五
宝永三六十五
同四十一九

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

同六年十一七卒年八十六 同十二月十日會頭轉新宮祢宜

季好三男 若宮祢宜 正四位下 西池木工
季通（スエミチ）

天和三正廿三 氏神祝 従四位下 年六十五

同年二廿八 同祢宜

同年九二 澤田祢宜 朝顕之聟
此時澤田祝佑宜依弟之服中不轉故超越

貞享四四九 奈良祝

元禄五二十八 若宮祝
此時奈良祢宜保家依忌不轉故超越

同六四十五 同祢宜 季村之聟

同六年八朔卒年七十五

宗勝一男 沢田祝 従四位上 藤木内膳
宗賢（カタ）

天和三二廿八 氏神祝 従四位下 年六十五

同年九二 同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

貞享　四四九

元禄四年六十九卒　年七十三　澤田祝

用顕二男　氏神祝　器位下　山本
金(カナ子)顕　　　　　　　左兵衛

天和三　九二

貞享二年十二月廿五辞職

同　四年二十一卒　年六十九

氏神祝　器見　従四位下　年六十五

兼如一男　新宮祝　正四位下　山本
兼述　　　　　　　　　　　丹波

貞享　二十二　五四

同　四四九

元禄　四六三

同　五二八

同年　十七

同年　十二七

氏神祝　金顕之脊　従四位下　年五十三

同称宜

沢田祝　宗賢之脊

同称宜

奈良祝

同称宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

同　六四十五
同年　八九三
同年　九五
宝永三六十五
同　四七九
同五年　正十三卒　年七十六

佐直二男　若宮神官　正五位下　藤木加賀　季通之旨
成直

若宮祝
同祢宜
大田祝
同祢宜
新宮祝
同祢宜

貞享四四九
元禄四六九三
同　五二十八
同年　十廿七
同年　十二九五
同　六四十五
同年　八九三
同年　九五

氏神祝　同日従五位下
同祢宜
沢田祝
同祢宜
奈良祝
同祢宜
若宮祝
同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

同十一年四十七年 七十二
清善一男 新宮祝 禹位下 東路 大膳大夫
清令
元禄四六 九三
同 五二十八
同年 十九七
同年 十二 九五
同 六四十五
氏神祝 従位下
同称宜 年五十七
澤田祝
同称宜
奈良祝

同年 八九三
同年 九五
同 十一五六
宝永四十一 北
同 五正九
同 六十二十
同称宜
若宮祝
同称宜 成真之脊
大田祝
同称宜
新宮祝
年七十七
享徳元年七十四卒

新宮祢宜　従四位上　岡本遠江

令嶺

元服　元禄五二十八

同年　十七

同年　十二九五

同　六四十五

同年　八三

同年　九五

氏神祝　正五位下　年六十

同祢宜

澤田祝

同祢宜

奈良祝

同祢宜

同　十一五六

宝永四六十五

若宮祝　此時若宮祢宜清令依妹之服中不薄故起越

大田祝

同年　十一廿

同祢宜

新宮祝　黄速之脊

同祢宜　依貧脊

同　五後正九

同　六、十二十

正徳五年七廿一卒　年八十三　同心有谷保加薄新嘉祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

保憲一男　大和良祝　從四位上　岡本治部

保庸

元禄五　十七
同年　十二　五
同　六　四　十五
同年　八　七三
同年　九　五
同十年　八　六　卒
年七十三

氏神祝　從四位下　年六十八
同祢宜
沢田祝
同祢宜
大和良祝

康俊男　氏神祢宜　從四位下　西池筑後

貞俊

元禄五　十二　五
同　六　四　十五
同年　六　六　卒
年五十六

氏神祝　從四位下　年五十九
同祢宜

弘之一男　澤田祢宜　從四位下　馬場織部

弘増

元禄六　四　十五

氏神祝　從五位下　年七十一

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

同年　六十三
同年　八十三
同年　九五
宝永三年三卅三卒年八十四
保寛男　新嘗祭　奉幣　岡本豊前守
保加ニ云
元禄六　六十三
同年　八十三
同祢宜　真俊脊
澤田祝
同祢宜
氏神祝　従四位下　年五十六
同祢宜

同年　九五
同　十八五
此時洪田称宜弘増依病不勤故差越
大宗良祝　保庸之脊
澤田祝
同　十一五六
宝永四六十
同祢宜
同年　十一七
若宮祝
同　五後正九
同祢宜
同　六十二十
大田祝
同祢宜

正徳元七廿一　清令之脊
同五八八　同祢宜　令顕之脊
同六年三廿卒　年七十九　閏廿八日季根轉新宮祢宜

季藏一男　太奈良祝　従四位上　岡本備中
季求（モト）
元禄六八廿三　氏神祝　従四位下　年五十六
同年九五　同祢宜
同十八廿五　澤田祝

同十一五六　太奈良祝
此時沢田祢宜依病不轉故超越
宝永四年九六卒　年七十

兼陽一男　大田祝　従四位下　中大路大炊
兼林
元禄六九五　氏神祝　従五位下　年五十二
同十八廿五　同祢宜
同十一五六　澤田祝

宝永三　三九七
同　四　六十五　大宗良祢宜
此時大宗良祝季永病不將故越之
同年　十一　九　若宮祝
同　五　後正九　同祢宜
同　六　十二十　大田祝
同七年九九五卒　年六十九　同祢宜　欠膳之脩

保香二男　若宮祝　従四位上　岡本播磨守又雅楽頭
保貽

元禄十八　九五　氏神祝　従五位下
同　十一五三　同祢宜
宝永四六十五　澤田祢宜
蔣有新宮祢宜清雄死闕之上亦有沃田祝季有之
死闕有如此
同年　十九一　大宗良祝　季永之嫡
同年　十一　九　同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

同　五　後正　九陞　若宮祝

同七年　三　廿二卒　年六十七

季雅二男
季有　沢田祝　従五位上　藤木　右衛門

元禄十一　五　六　氏神祝　従五位下　年二十五

宝永三　三　廿七　沢田祝

此時氏神祢宜保紀依父喪不待故超越

同四年　五　廿六卒　年七十四

秉俊男
詮俊（アキ）　若宮祢宜　従四位上　西池　美作守

宝永三　三　廿七　氏神祝　従四位下　年六十二

同　四　六　十五　沢田祝　季有之替

此時有新宮祢宜沢田祝二職仍跪

同年　十　廿一　同祢宜

同年　十一　廿　奈良祝

同　五　後正　九　同祢宜

同　六　十二　十　若宮祢宜

時若宮祝保綱病不堪故超越

同七年 九十八卒 年六十六

氏爵男 大田祢宜 從四位上 朱

氏行ツラ 淡浴寺

宝永四六十五 直補

時有新宮祢宜澤田祝 氏神祢宜 從四位下

直補之 真補之 年六十九

同年 十九 澤田祝

同年 十一 九 同祢宜

同 五 後正九 奈良祝

同 六 十二十 同祢宜

同 七 四六 若宮祝 保綱之脊

同年 十九 大田祝 兼林之脊

此時有若宮祢宜大田祝二職仍超越

正徳元 七 九一 同祢宜

同三年 二十九卒 年七十五

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

氏諭男
氏起（ヲキ）

新宮祝　従四位下　北大路　出雲

宝永四　六　十五　氏神祝　従四位下　年六十二

同年　十　廿一　同祢宜

同年　十一　廿　澤田祝

同　五　後正　九　同祢宜

同　六　十二　十　奈良祝

同　七　四　六　同祢宜

同年　十　廿　若宮祢宜　詮俊之替

此時有若宮祢宜大田祝二闕仍如此

正徳元　七　廿一　大田祝

同　三　四　朔　同祢宜　氏行之替

同　五　八　八　新宮祝

同六年　正　十四　卒　年七十一

季倶二男
季根（モト）

新宮祢宜　正五位下　岡本　民部

宝永四　十　廿一　氏神祝　正五位下　年五十八

同年　十一　正
同　五　後正九
同　六　十二　十
同　七　四　六
同年　十　廿
蒔有若宮祭大田祝二處仍如此
正徳元　七　廿一
同　三　四　朔
同祢宜
澤田祝
同祢宜
奈良祝
若宮祝
大田祝
同祢宜
新宮祝　氏起之脊
同祢宜　保加之脊
享保十二丁未年四月廿六日辛　年七十八
同年　三　廿八
同　五　八　八
同　六　正　五
同祢宜
黄楊三男　若宮祢宜　従四位下　中大路内蔵助
黄起
実永四　十一　廿
同　五　後正九
氏神祝　従五位下
同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

同　六　十二十　澤田祝
同　七　四　六　同祢宜
正徳元　七　九一　大奈良祝
同　三　四　朔　同祢宜
同　五　八　八　若宮祝
同　六　正　九五　同祢宜
享保二年四　九　卒
年六十六

清屋一男
清暉　新宮祝　從四位下　岡本筑後
元ノ如
宝永五後正九　氏神祝　從四位下
同　六　十二十　同祢宜　年齢九〇下北面
同　七　四　六　澤田祝
同年　十　北　奈良祢宜
蒋有若宮祢宜大田祝二次又沢田祢宜兼起
依兄之服中不轉故越越
正徳元　七　九一　若宮祝

同三四朔　同祢宜
同五八八　大田祝
同六正廿五　同祢宜
同年三廿八　新宮祝
享保六年六廿四卒　年七十二
自六月廿五日至七月十五日新宮祝職闕
保照三男
保太
新宮祝　正四位下　東辻　宮内大輔

宝永六十二十　氏神祝　従四位下　年六十九○上廿九面
同七四六　同祢宜
同年十廿　奈良祝
此時有若宮祢宜大田祝二闕又沢田祢宜並超
依忌不傳故超越
正徳元七廿一　同祢宜
同三四朔　若宮祝
同五八八　同祢宜
同六正廿五　大田祝

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

同年三廿八　同祢宜
享保六七十六　新宮祝　清可之替
享保七年六月廿七日卒　年八十二

季倶一男
季脹（ハル）　大舎禰　正四位下　北大路大学
元ゝ栄
宝永七四六　氏神祝　従四位下　年廿三
同年十廿　澤田祝

此時有若宮祢宜大田祝二闕故如此
正徳元七廿一　同祢宜
同三四朔　奈良祝
同五八八　同祢宜
同六正廿五　若宮祝
同年三廿八　大田祝
此時若宮祢宜其起依病不聘故超越
享保六七十六　大田祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

享保六年十月十二月卒 年七十四

保香四男 新宮祝 正五位下 村雲 豊後守
保臣

宝永七 十 十九 氏神祢宜 直補 正五位下 年五十八
此時有若宮祢宜大田祝二闕仍保臣直補）

正徳元 七 廿一 澤田祝

同 三 四 朔 同祢宜

同 五 八 八 奈良祝

同 六 正 廿五 同祢宜

同年 三 廿八 若宮祝

享保二 四 廿一 同祢宜 兼起之替

同 六 七 十六 太田祝

同 六 十一 三 同祢宜 季張之替
倶自被御出内茲従享保六年十月十二日至同十二月三日大田祢宜
闕職之間十月朔日供備番同三日御禊御神事代官役参勤） 保太之替

同 七 七 廿三 新宮祝
従享保六六廿七至同年七廿二新宮祝闕職此間代官役参勤

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

享保十年九月九日　卒　年七十三

益顕一男　澤田祝　従五位上　岡本備中守
由顕

宝永七十九
正徳元七廿一
同　三四朔
同五年十一朔　卒　年五十六

氏神祝　従五位上
同祢宜
澤田祝

清倫一男　奈良祢宜　正五位下　岡本長門守
清盈

正徳元七廿一
同　三四朔
同　五八八

氏神祝　従五位下
同祢宜
澤田祢宜

薜洪曲祝由顕依叔父之服中不憚故超越

同　六正九五
同年　三九八

奈良祝
奈良祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

享保三年 正三 卒 年七十一

致鑛三男 若宮祝 従四位下 藤木石見守
水顕

正徳三 四 朔
同 五 八 八
同年十一 十四
同 六 正 九五
同年 三 九 八

氏神祝 正五位下
年四十八
同 祢宜
澤田祝 由顕之脊
同 祢宜
太良祝

享保二 四 九一
此時太良祢宜清盛依無
不轉故超越

若宮祝

同四年 十 十八 卒 年五十四

来俊三男 澤田祢宜 従四位上 西池木工
之俊

正徳五 八 八
享保二 四 九一
同 三 正 十四

氏神祝 従四位下
年六十五
同祢宜
澤田祝

同四十廿八　同祢宜

同五十晦卒年七十

季榮二男

季副

藤木播磨守

正徳五十一十四　直補　氏神祢宜　従五位下　年廿一

此時氏神祝之後依母之服中不補故直補

同　六　正廿五　澤田祝

同年　三　廿八　同祢宜

享保二　四　廿一　奈良祝

同　三　正十四　同祢宜　清益之替

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録．第25冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

同　四　十　廿八　若宮祝　水顯之聟

同　六　七　十六　同祢宜

同　六　十一　三　太田祝

同　七　七　廿三　同祢宜

同　十　十　廿二　新宮祝

同　十二　五　十四　新宮祢宜　季根之聟

貴顯三男
輝顯　新宮祝　正四位下　市　兵部権大輔

元陽ー
又芬ー　正德六　正　廿五　眞補　氏神祢宜　従五位上　年五十四
此時氏神祝之俊保母之服中不得故眞補

同　年　三　廿八　澤田祝

享保　二　四　廿一　同祢宜

同　三　正　十四　奈良祝

同　四　十　廿八　同祢宜

同 六 七十六 若宮祝

同 六 十一 三 同祢宜

同 七 七 廿三 太田祝

同 十 十 廿二 同祢宜

同 十二 五 十四 新宮祝

同 十八年 六 廿九 卒 年七十一
自六月廿四日至十月十日新宮祝闕職

寛顕一男
ムス子
貴顕 大奈良祢宜従四位上 市 右京亮

正徳六 三 廿八 直補氏神祢宜 従四位下 年二十一
直補所見上

享保二 四 廿一 澤田祝

同 三 正 十四 同祢宜

同 四 十 廿八 奈良祝

同 六 七 十六 同祢宜 未拝賀

同 六八二卒 年六十七

鎮頭四男 大田祝従四位上 藤木周幡守

太顕

享保二四廿一 氏神祝 正五位下 年四十九

同 三正十四 同祢宜

同 四十廿八 澤田祝

同 五十一三 同祢宜 之復之替

同 六八廿七 奈良祝

同 六十一三 同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

同 七十三
同 十十六二
同 十二五十四
享保十三十九二卒

若宮祝
同祢宜
太田祝
年六十

良幸男 大田祢宜從四位下 藤木兵庫
昌幸 越中
元信

享保三 正十四
同 四十九八
同 五十一三
同 六十七十六
時太田祢宜大興有故帯越之
同 六八九七

氏神祝 從五位下
年五十二
同祢宜
澤田祝
大荒良祝
大荒良祢宜

同六十一三
同七七十三
同十十九一
同十二五十四
寛保十三十一十二卒
第宮祝
同称宜
太田祝
同称宜

季常三男
季卿 新宮祝 兼帯 関月伯耆守
元則寛保四十九八
同五十一三
同称宜
氏神祝 播磨守 従四位下
同六七十六
沢田祝
同六八九七
同称宜
大宗良祝
同六十一三
同称宜
同七七十三

同 十十 九二 若宮祝
同 十二 五十四 同祢宜
同 十三 十一 三 大田祝
同 十八 八十一 九七 同祢宜
同 新宮祝 釋顕之督
元文四 三 十五 卒 年八十二

季常五男
季内
藤木大炊
享保 五 十二 三 氏神祝 正五位下 年五十三
同 六 七 十六 同祢宜
同 六 八 九七 沢田祝
同 六 十一 三 同祢宜
同 七 七 九三 奈良祝
同 十 十 九二 同祢宜

同十二五十四
同十三十六三
同十三十一九七
同十八八十一
元文四三十一
寛保十一九八卒
年七十六

若宮祝
若宮詹
大田祝
大田祢宜
新宮祝　季卿脊

若宮祢宜故奉射男太田祢宜保世後上
季賢

史路
主計

享保六七十六
同年八九七
同年十一三
同七七九三
同十十九二
同十二五十四
同十三十一三

戎神祝　年五面
従五位下

同祢宜
沢田祝
同祢宜
奈良祝
同祢宜
若宮祝

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

同 十三 十一 廿七
同 十八 八 十一
元文四 三 十五
元文五 閏七 廿 卒
年七十三

若宮祢宜
大田祝
大田祢宜

保嘉男
保記

岡本
大蔵

享保六 八 九七
同六 十一 三
同七 七 九三
同十 十 九二
同十二 五 十四
同十三 十一 三
同十三 十一 九七

氏神祝 年五十 徳五下
同祢宜
沢田祝
同祢宜
奈良祝
同祢宜
若宮祝

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

同十八八十一　若宮祢宜
元文四五十五　大田祝
元文五辰七九九　大田祢宜　季賢之脊
寛保三十二二　新宮祝
延享四十九　同祢宜　季嘉之脊
宝暦三八十六無年年八十二

新宮祢宜清雄二男
董清　若宮祝　備後下

享保六十一三　氏神祝　年六十二　備後下
同七七九三　同祢宜
同十十九二　沢田祝
同十二五十四　同祢宜
同十三十一三　奈良祝
同十三十一九七　奈良賛
同十八八十一　若宮祝

芝主勝正

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

元文二年十二月廿八日卒　年七十八

保則男　保寅（スケ）

岡本　右近

享保七　七　廿三　氏神祝　従五位上　年五十五

同　十　十　廿二　同　祢宜

同　十二　五　十四　沢田祝

同　十三　十一　三　沢田祢宜

同　十三　十一　廿七　奈良社祝

元文二　十二　廿九　奈良社祢宜

同　四　三　十四　若宮祝

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

同四十二九五　若宮祢宜

同五壬七九九　大田祝

寛保三十二二　同祢宜

延享四十九　新宮祝

宝暦四三十五　同祢宜　保記之替　于時八十七才

去年八月十六日ヨリ今年三月十四日迄[illegible]戒依神供一件并
酒殿釜鳴之儀轉補小打幣雑差上者一件共吟味中有不
被及沙汰云々

宝暦八年六十一卒　九十一才

季元三男
季英（ヒテ）　若宮祢宜　正四位下　西池刑部大輔

享保十十六二　氏神祝　従四位上　年六十二

同十二五十四　同祢宜

同十三十一三　沢田祝

同十三十一六七　同祢宜

同十八八十一　奈良祢宜
時奈良祝保篤依故障不勤ニ付超越

元文二十二十　若宮祝　董清替

元文四三十四
元文四十二十四卒 七十六
若宮祢宜

氏容一男
氏備（ミツ）
北大路
縫殿

享保十二五十四 氏神祝 正五位下 年四十八
同十三十八三 同祢宜
同十三十八九七 沢田祝
同十八八十一 沢田祢宜
元文二十二九 奈良社祝
元文四三十四 奈良祢宜
同四十二九五 若宮祝

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

元文五年七九
寛保三十二二
延享四十九
寛延四年十九
若宮祢宜
大田祝
同祢宜
卒七十歳

由緒男
葛顕
藤木
民部大輔

享保十三十一三
同 十三十二七
享保九八十九卒
年六十

氏神祝
同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

近顕ノ男
与顕　中大路　圖書頭

享保十三十一廿七　氏神祝　従四位下　年五十一

同十八八十一　沢田社祝

此時氏神祢宜菖顕依故障不請存超越

元文二十二卅　沢田社祢宜

元文四三十四　奈良祝

同四十二廿五　同祢宜

同五壬七廿九　若宮祝

寛保三十二二　同祢宜

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

延享四十九
寛延四十七四
宝暦三八十三卒七十六
大田祝
同祢宜氏雄之脊
作顕二男
亮顕
享保十八八十一
同十八九八
元文二十二九
元文四三十四
同四十二九五
同五七九九
寛保三十二二
星川
内膳正
氏神祝
氏神祢宜
沢田祝
沢田祢宜
奈良祝
奈良祢宜
若宮祝

延享四 十 廿七卒 年七十九

故氏倅男貴布祢祝氏之孫
氏柱

享保廿 八 廿八
元文二 十二 卅
同四 三 十四
同四 十二 廿五
同五 壬七 廿九
寛保三 十二 二
延享四 十 九
此時若宮祝亮顕依病氣不轉故超越

山本

宮内権少輔 従五位下 四十九卒
氏神社祝
同社祢宜
沢田社祝
同祢宜
奈良祝
同祢宜
若宮祢宜

寛延四 十 廿四
宝暦四 五十九
大田社祝
辞職 依海老徒

新宮祝保太二男
保萬（カツ）
元文二 十二 卅
同四 三 十四
同四 十二 廿五
同五壬 七 廿九
寛保三 十二 二
延享四 十 九
同月廿九日

東辺
修理大夫 従四位下（六十一才）
氏神社祝 〃
同祢宜 〃
沢田社祝
沢田祢宜
奈良祝
同祢宜
若宮祝 亮顕之替

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

寛延四十七四

宝暦三七 卅卒 年七十七 若宮称宜

元清一男
庸清

元文四三十四 岡本大和守
同四十二 十五
同五 七 十九
寛保三十二二
延享四十九
同月 十九日
寛延四十七四

氏神社祝 後豊後下
同称宜
沢田祝
同称宜
奈良祝
同称宜
若宮祝

宝暦四 三 十五　轉新宮祝

此時三職超越子細新宮祢宜保寅之方ニ見エタリ

大田祢宜死又同祝氏桂遠慮中故不轉若宮祢宜死闕何如此

宝暦八 六 十四　轉同祢宜　保寅之替

臺直勇

定直

元文四 十二 廿五　氏神社祝　従四位下 五十四歳

同五 壬 七 九 九　氏神祢宜

寛保三 十二 二　沢田祝

延享四 十 九　同祢宜

同月 廿九日　奈良祝

寛延三年七 十 五

年 癸未卒

年六十五

藤木

兵部少輔

藤木　筑後守

氏神祝　従四位下　六十四歳

同祢宜

沢田祝

同祢宜

奈良祝　定夏昏

同祢宜

辞職　依海老江也

長真一男

言直

元文五年七月九

寛保三　十二　二

延享四　十　九

同月　九日

寛延三　八　七

同四　十　七

宝暦四三ノ十五言直　遠慮中故不勤仍起越

宝暦四　五十九

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

カ
五

權祝職記　社司上表記

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

權祝職之記

慶安二年二月廿日頃　當社之傳奏依勅宣三條大納言實教卿之奉也此卿傳奏之時權祝代重村任先例望申權祝職同時正祝重副嫡男重時亦望同職于時手又訴論自重副方申訴云彼重村者代々為重副家礼人故以我家譜代之權祝職之自先祖預置之処至今我競望之事無其謂儀候之間此比以使所預置之權祝職自今以後返取于本家之由及度々雖申之無兼引之間急度家卿下知被停止彼重村之競望之且為冥加之間權祝之口宜可被下于重時之儀即執奏奉卿之旨申之了將亦重村申上云重副訴申之條々無其證儀也　當社之社法也加之重村者正祝之嫡流權祝之正家也此故代々為權祝之由以系圖

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

令覧之處傳奏仰云自昔搏任職之由其儀尤為社例之古法但重村
持来之系圖直為權祝譜代之由所載也若有勅宜哉否荅申云重説一
人之外無口宜案之由申之了又仰云不帯口宜者何以為權祝哉若
謂其神役勤来之故者可為權祝代之事也無代字之系圖是亦有其
職僭偸之罪者也將又重副所訴申者尚以大罪之至也代々為正祝之
由其勅宜有之哉否荅申云當社神主之外者不被下口宜例之由申之處
又仰云不蒙勅許而代々為正祝之事代々之盜人也加之以勅宜之官禹私計之
預置于他家之由申掠之儀是又欲棄他人之職所存也其罪科重疊言語
道斷之儀也夫為勅任之職上者被擇賀茂氏人之中雖為誰人於可被補下
之何事有之哉然今以我一身之謬申掠古来之社例之罪科矯遁之也寳教
存之間者堅以不可令補此職之由被仰渡之了重村者勤来之年労敏柔
多之上其身及年老不便之間有　奏聞雖為可被補之儀是又譜代之
申分不合于古法之間先不可有　奏聞之由被仰之小折帋（在下之）

美應元年十月當權祝代正五位下賀茂縣主重村叙從五位下同重栄叙從五位
下　此傳（上卿）奏三條大納言實教卿也奉行職事萬里小路左少弁雅房朝臣也

同二年十二月八日乙當社傳奏廣橋中納言綏光卿奉也

同三年正月十二日重副三男望申權祝職進上小折帋於傳奏（綏光卿也）

同年二月六日重栄欲勤權祝之神役進上勅状於傳奏其奏者速水右京也其
（解気）勅状云

請謹案天裁旁准先例被黙正祝代重副之妨勤仕

右賀茂皇太神宮權祝之神役者 賀茂重栄曾祖父重治以来連綿呼以勤仕也就中祖父重説縣主慶長年中奉 勅宣當職拜任之後及老年而子
奪此職役於嫡男重村矣重村積勤役之労三十餘年也而去年七月一日又以此職役與奪於重栄了 因茲雖未奏聞任社例書改神前之籍即奉于當社前傳奏令申沙汰及社中披露之後權祝之神役日供之輪番并重陽節供土月相嘗會臨時祭等悉奉勤来訖而去年十二月六日愚父重村病死矣重栄重服之間依一社之舊例以名代勤仕之処同月九日小祭之時重副之三男始企權奉欲勤權祝之神役於是重栄名代賀茂季副存其子細頻無擾之由申之処重副之權祝職者重副之先祖預于重治之柳

當社之祠官者元来擇於賀茂氏之中堪其任者社中挙議而經奏聞蒙 勅許所以轉任之法也雖然近来重定縣主之一流雖如譜代補祝職而未蒙 勅許而勤仕之則暫補祝代既經奏聞而蒙 勅宜則直補祝矣皆是無嘗非以 勅任職之謂也而重副之先祖以此職預置于重栄之先祖之由且輕朝儀且無社法者欤于茲重栄理運之旨有三也若論階級則重副無位而不帯補任自補正祝其三男亦以无位也於重栄者七父重村去ニ年已被叙呂重栄者嫡子申叙爵了是其二也若論本系則自五世之祖相分以来重副者是庶流也重栄苟為嫡流矣是其二也若論譜代則曾祖父重治以来未有一日怠權祝之神役相續至今矣是其三也以此旨趣數雖断暁不敢羙汁孝自舊冬元旨之小祭至當春十二日之歩射毎度相臨神事之期不顧致齋之慎或相並于

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

左右或著坐于前後強及罵詈之論猥成種々之妨是故有限之神事時刻推
移夜已及昼々亦向夜如斯之作法誰不悲歎哉前代未聞 神慮難測
者也方今不被制止彼妨者向後定有放埒之儀乎者早蒙 官裁被退却
重副父子之新儀速浴 鴻澤被許容重栄累代之久労者自爲半無爲
各貴乎有道益無以神事祭礼之懈怠矜可爲天長地久之祝禱矣仍
勤仁細謹奏以解

某應三年二月十一日 權祝代從五位下賀茂縣主重栄

同二月十三日 進上同 解汎 數狀於二条殿下并武家両傳奏清閑寺前大納言共房卿野宮
大納言定邊卿也各即請納也殿下之執次諸大夫川尾兵庫助高階範房也
共房卿之執次堂坂主水也定邊卿之執次村瀬采女也

當正月中之神事每度彼重副三男令參向于社頭々相妨權祝之神役此故重栄
數度參于傳奏致愁訴之趣者重副爲邪行之計々誘出彼三男自去
年十二月九日之小祭至當正月之諸神事時刻有限之神事及延引於神前
高聲之惡口等前代未聞之非礼神慮難測社中之愁歎無窮之由仰
願者以御下知自今以後於被停止彼奸妨者偏可爲御神忠奉存之旨雖令
頻愁訴終無參聞之送數日

同二月二日此夜亥刻自片岡山上光物飛行里人驚目之此比每曉如桃灯之形火自
然在于片岡山之峯放光及明天之消失之見人致奇異之思其放光之在
所經十余日之不変改也將又須一両夜池殿之一町男女六七人有夢皆是燒亡
之事也各所驚之告不相替共語合之其一町社奉祈念之

同三月三日今日之神事彼三男猶致件之妨了重栄代自社頭令退出後重栄
参于傳奏廣橋家言上云今日之神事彼妨不止之間御下知奉御之旨歎申之
殊来月者當社之大祀葵祭也自其以前蒙御下知可被停止彼濫妨之
儀奉願之旨雖申入之不能御返答無是非令退出了于時風聞彼重副三男従
神事退帰于私宅俄倒伏絶入之由也或云彼者帰宅脱衣冠之時眩暉吐血死之
後又息出故尺々針灸薬之三術云々今日重栄以消息申入于傳奏之家臣速水
右京之趣者依彼重副之障礙神事非礼之為躰神慮難測奉存之故毎度
雖訴申傳奏無御執奏之上者向後此儀不可申訴候重栄者欲遂私之望非訴
申之儀只唯奉恐神慮耳哉雖然任傳奏之御所存自今以後不可申上之由申
入之了返事之旨者此儀為公事之申分之間経武家之訴断之後可申上之由也今

宵戌刻神山鳴動村人驚耳了

同月四日今日辰下刻彼重副三男死去之由彼家之下女等申之了
今日辰下刻傳奏御薨去之由（卒札）及黄昏従京都申来了彼三男与傳奏同日同刻
之死去奇異之儀也神慮可恐云々（私云々此）
承應四年正月四日重栄差上權祝之小折帋於傳奏飛鳥井大納言雅章卿執次安
田宮内也則御請納也
承應三年四月四日被仰出之自此時飛鳥井家之傳奏也
同月十日先年所進于廣橋家之歎状相添之又自三條西家傳奏以来之條々以歎状申
上于當傳奏了雅章卿執次安田宮内也其案
賀茂皇太神宮權祝代従五位下賀茂縣主重栄（已下別行）（イ是迄一行）請殊蒙天恩因准先例拝任

右證校案内　當社利官者擇賀茂氏之中堪其任者一社一月擧議奏達而蒙
勅許被補任者往古之格式前代之規範也而其法陵夷此例廢弛矣雖然
到于今有一社之法也所謂未帯補任則稱祝代既蒙勅宜則直稱祝也而今正
祝代賀茂重副未帯補任而自稱正祝誰啻潜勤其職剰欲奪權祝職矣故重
副父子與倶企列奏始自去々年之小祭　十二月九日　至于去年之歩射　正月十六日　毎度陰于
神事之庭頻妨権祝之神役非法之至無道之極　神慮難測鬱懣難黙止
者也於是重栄勤一通之解状雖訟于前傳奏公務無暇而未及執奏時日
推移而迎上巳節彼重副父子亦為障礙退帰于私宅脱衣冠否為妨之本
人俄然絶入翌日昏終焉爾来神役無障弥月越年矣而重栄父之除服以後数度
神事致奔勤之處為彼重副之所行押留奏向之催使當月五日卯刻獻卯杖
同七日寅刻獻若菜辛白馬有限之神事時刻及延引景為重副之計依押留
催使也且為神事定例之基且為　神慮萬一如之最笑加之項又當競望之旨
有言上于傳奏之聞也若論拝任之當運則重栄曾祖父以来連綿神事
奔勤之積労未有一日之懈怠者也　當職拝任之例先階級　積労等具于去年之解状　将又論奏譜之底摘則重副
者未葉也重栄者本流也云彼云此重栄理運重畳笑御願以此旨趣被執奏者
誰謂非處于望請蒙　鴻慈拝任権祝専勤職掌鎮致丹誠者弥為天長地久
之至祝至禱笑仍勤始終謹請官裁重栄誠恐誠惶頓首謹言

　　義應四年正月十日　　権祝代従五位下賀茂縣主重栄上

右之解状進上之後日雖致奔上無奏聞可有辞退傳奏之沙汰也

同年二月十二日重副所進上之口上覚書之案

口上之覚

今度氏人重栄権祝職ヲ望ニ付、小折帋指上候ニ付、我等男重時権祝之小折帋上可申旨
御ニ候、然者正権両祝職者我等家ニ譜代職之子細御座候、尤より家礼之氏人
重村ニ外陣かわりの権祝代役仕らせ候処ニ、先年重村権祝之代役之へをきましき
由致競望、於て今其子重栄掠上致訴訟候、彼重栄代々相兼之氏人としての
任権祝之由、社家滅亡之企、前代未聞、殊其上氏人重栄神事ニ致推参、毎度社頭参
向之業内をおさへ、忍ニて社法をみだし候故、社役難勤候、当職ニて在毎事非
法之穿鑿仕候へとも、却て神事之りくつにて罷成、又不致穿鑿候へハ社例伝記之
神道破滅し、神慮難測、且 公儀之憚も不存候間、手正祝職を上表仕度候ニ
御心得被成可被下候、仍権祝之小折帋者先致延引候、当職辞表之已後御理
可申上候、以上

承應四年二月三日　正祝賀茂重副判

飛鳥井大納言殿
雑掌

同二月八日伝奏之事、葉室中納言頼業卿之奉也云々
右双方之申状等不有、奏聞伝奏即辞退也

明暦元年二月廿五日今日参于伝奏、差上権祝小折帋并先々数状勘例等、御奏
聞奉希之由申上之了

同八月廿七日祝前神主用久死去了 五十七才 自昔雖葬于正伝寺、今度者於河原[illegible]寺

葬礼ヿ〕其子理久如先例依父之衰辞神主職ヲ奉渡 印殿於
社頭了〕
九月廿日正祢宜矩久神主補任之勅許也
同六日 印殿渡御于矩久亭正祢宜之事前神主理久為重服之身望申正祢宜之旨
申之云〻
同八日今晩如例年相撲内取之神事也到于刻限神主矩久正祢宜岡代々官氏人季倶
正祝重副権祢宜代責布祢祝起久子権祝代氏人重沢恭着于土屋之時神主
矩久云季倶者何為有着座ヤ之旨申之季倶答云當時正祢宜岡職也故如社例
為代官役ヲ従社中令奉勤之由申之處神主正祝権祢宜不不能返答令退出了
狼籍之儀也于時奉向于社頭之衆中有評議ヲ自社中差使者於神主亭云
季倶為代官任社例令奉向欲勤正祢宜岡職之神役雖然自其方以代官可
被勤之ヤ是又無正人之上者不可有列儀欤将欲決相論之間神事及遅々欤之間
重テ可決断之間於今夜者自其方以代官可社奉勤之旨申之令此方代官季倶
退出之了〕
同廿日今日重陽節之神事如例也社司奉勤代職如昨夜於正祢宜代者片岡祢宜誠平
奉勤也
此後誠平奉于傳奏任先例望申正祢宜職ヲ〻
同年十月 誠平所望正祢宜職之申沈令持奉于傳奏ヲ〻其案於或御方社見下之
間字之了〕
庁岡祢宜従五位下賀茂縣主誠平 誠惶誠恐謹言

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

請殊蒙　天恩因准先例拜任正祢宜状
右謹検先例　當社祠官之中有闕職則依﨟次致轉任者古来之社法也爰謂誠平
祖考者父權祢宜詮平祖父神主為平曾祖父神主秀平高祖父神主遠平等也誠平
申正祢宜之條誰謂非據乎望請蒙　天恩早任正祢宜致国家安全之御祈祷
矣誠平誠惶誠恐謹言
明暦元年十月日片岡祢宜従五位上賀茂縣主誠平上
右之申文捧于傳奏之処神主矩久前神主理久令一紙ヲ而奉于傳奏誠平所訴申
者全非礼之由申之云々其子状之案是又於或方写之訖
口上覺（或本ニ此三字無し）
一 賀茂片岡祢宜鳥居大路修理大夫誠平年中數ヶ度神役十餘年以来不致出仕
候別而片岡社者當社第一之攝神有子細社ニ而御座候處ニ御戸閉ヲ不仕天下不吉之所
行無勿躰之儀於社家度々穿鑿仕候へ共曽兼引不仕罷候神慮ヲ不存前代未
聞之曲事ニ候且向後之非例ニ罷成候鳥居大路先祖宗平豊平如負治應永之例非任社法被
誠平當職解官被仰付可被下事
一 當社領之内賣買之儀停止之事御訴訟申上候ハ先年從所司代於向後者堅可致
停止之旨被仰付候然處ニ誠平作在許人之者家之社領沽却仕候段背御公儀之御法度社
法混乱仕候重々咎人ニ而可帯當職之仁ニ而無之此趣於武家猶穿鑿可有之事
一 誠平淨職之社法ヲ乱し家内悪病之不浄人抱置候古来於當社悪病人ハ追放仕候社法ニ（順平乳母悪瘡ヲ病故ニ又子息ニ目前ニ）
御座候處ニ當然之法儀をも不用神慮恐をも不憚不浄之同座同火沙汰之限ニ存候其上
正祢宜濫望之企無謂候若於御不審ハ對決被仰付可被下候事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

右之趣彼是重々神敵之仕ニ而不及博任之沙汰急速被任社法之旨誠平
解官之儀ハ御計下ニ而可為御神忠仍而如件
明暦元年十月九日　賀茂社司等
葉室中納言殿
雑掌中
右之返答書之案是又於内不令出写之了
返答口上之覚
一 御神事不参之由訴申候
故障之時ハ不参仕、就中ニうきられ自餘之社司も不参数十度在之座ニ在候之時者手ニ名代ヲ以
神役相勤、然ニ十余年不参仕由訴申ハ太以虚言を申ハ殊ニ去年当年ハ度ニ致参勤
御戸ひらき仕事諸人之存処ニ又訴人之内数度之不参不可勝計事
一 田地売買之事訴申候
身上不如意之社司田地売之儀自昔数多御座候、先年社司と氏人と申分之時氏人方ヨリ
公儀へ指上ル證文内森松下先祖之沽券数通在之候、殊ニ近年松下主殿ニ申者家領売
申ル儀明白之事ニ御座候、如様之儀此度之さくへハ成申間敷ニ彼是取あつめ訴申ル事
一 ちられ病気之事訴申候
病気在在故養生仕り居申候、本復不仕儀ニハ如社法可仕覚悟ニ而内座内火之儀此比まで
訴人之森松下も我等所へ来り内座内火仕候事歴然之事ニ御座候、殊ニ社法をやぶり申事ハ
我等正祢宜を不申上以前ニ急度可訴申上義と存候、然ニ此度正祢宜申上候故さくへのしこめ
訴へ申候、右条々我等ニ罪科在之候て彼森松下を可為内罪ニ奉存候事

右条々訴申子細者、森松下両家として神主職を譜代仕度存ヲ以如此種々
之儀訴申、若森松下両家として神主正祢宜をかすめとらんとくハたて申候ハヽ自餘の
社司共仕之法断絶可仕事、歎敷奉存候、詮先日指上候歎状之趣宜披露所仰候、以上
片岡祢宜鳥居大路修理大夫誠平

明暦元年十月廿五日

葉室中納言殿

雑掌中

同十月廿六日今日於　禁裏官位之事有御僉議之上當社正祢宜職之事誠平望申
之例為理運之由有御官裁之、被成　勅許之由也

同月廿七日　今日誠平正祢宜拝任之拝賀事了、但社法之改神前之御籍之法收退出云々

同年十二月二日社司等参于傳奏重栄所望申権祝職之事、欲申妨之、以連署之上表
状進于傳奏頼業卿云々、其案

口上之覚

一 今度氏人重栄権祝を望申由ニ候、然者権祝職者正祝家譜代職之社法ニて御座候、
尤様ニよつては氏人重説重村正祝家ニ仕て萬石仕、故祝家近来無人之刻重説重村
其外之氏人共にも外陣之権祝代役仕らせ、又権祝内陣之社役ハ氏人不罷成之社法ニ而 候考本
御座候故、今正祝相勤、此外祠官無之候者神主下知を以諸神事全致執行、然所ニ
重栄社法を破り権祝職を競望之企、剰私ニ推参仕毎度神事ヲ妨申候、沙汰之限ニ候、重栄
神事推参之儀此度急度被仰付可被下事

一 重説重村重栄代々相兼之氏人ニて年中於諸神事ハ青侍共之社役相勤祠司

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

右あしつらひ候ハゝ此度令新儀社職ヲ競望前代未聞ニ社家与氏人相別次第ハ
法各別之社法ニて御座候処ニ氏人も同性之由申ハ同性ニハいへとも一度氏人職之席ニ下り
重テ又任社職之社法無之社司無人之刻通久四丈ニ而任神主ハ雖然当社無跡以来
終氏人不任社職上下之次第歴然ニ同性ハ当社ニ不限源平藤橘諸性ともニ家ニ
より次第不同数多證據有之事ニ候然ルニ彼重栄社法上下之次第可致混乱
之ため存重々曲事ニ奉存候

一
正祝家代々補権祝之例延徳権祝重賢天文同重能永禄同重邦慶長
同重次如此正祝家代々止権祝職次第に任ヲ仕ニ却テ重栄代ハ権祝職代あるい
ハきニ様ニ申上ハ正祝家礼之重説重村ニ不限他人之氏人ヲも雇正祝より権祝
之代参仕らせて證文数多慥ニ御座候然ルに重栄掠 上虚言重々申上ハ権祝職ニ付

一
諸神事神盗之子細ハ重栄曽存知之事ハ無之及若於御不審者對決可被仰付事

一
寛永四年氏人甚五郎補宜職ハ濫望ニ処ニ為氏人補社職之儀無跡以来其ハ社法無之
旨申上ハ并重説氏人といへとも帯ロ 宜之由申及此時始而兼ハ然ハ重説一生涯社
家隠棄仕其上当社之拝賀神主亭 御大明神神前之作法なとも不仕又神前明鏡
之御札ヲも不改重々不審之儀ニ其刻御断申上ニハ則甚五郎 補社職之事不被成下ニ
候重説幾世社法巧混乱之儀一社之魔鬼行ニ重栄又度ニ濫望代ニ神敵之者ニ事

一
寛永年中氏人重村親重説権祝職ロ 宜有之旨申上社司配分之御祈祷料を望及
公儀之沙汰穿鑿御座ハ然共重村代々為氏人事紛無御座ハ故新儀ヲ申之旨沙汰之
限之由所司代御批判并御奉行将又去ル年於小出伊勢守殿板倉周防守殿五味備前
守殿社法御吟味之御社司与氏人社役作法次第各別ニ然者従奉行衆筋目之通

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第25冊』 請求記号 832-305
ガラス使用